

「まちの駅」をフィールドとした 活動等による 地域活性化への貢献

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正ゼミナール 活動報告書



ごあいさつ



長岡大学 学長 村山 光博

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」は、平成19年度に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択された「学生による地域活性化提案プログラム 一政策対応型専門人材の育成一」に始まり、今年度で10年を迎えることができました。これまで長きにわたりこの取り組みを続けて来られたのは、地域の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物と、深く感謝しております。まだ十分には地域の活性化に貢献しているとは言えませんが、このプログラムの取り組みを始めた10年前と比較すると、周辺地域における「学生による地域活性化プログラム」の認知度は明らかに高まってきていると感じております。これまで本プログラムの運営において積極的にご協力をいただいていた地域連携アドバイザーだけでなく、たくさんの地域の方々からも本プログラムの個々の取り組みテーマに対するお問い合わせや称賛の声をいただいております。また、これらの学生の取り組みに関して、新聞やテレビなどのマスメディアでも大きく取り上げていただくことが多くなりました。

長岡大学の建学の精神は、

- ・幅広い職業人としての人づくりと実学実践教育の推進
- ・地域社会に貢献し得る人材の育成

です。本プログラムは、まさにこの精神を実現するための本学の中心となる教育プログラムであると言えます。

「地域活性化とは何か」という問いに対する明確な答えは無いと思いますが、本プログラムでは、答えの無い課題に対して、どのように考え、どのように行動して行くのかを学生が自ら試行錯誤しながら体得していくことができます。大学を卒業して地域社会の一員となる学生たちが、これからの地域が抱える課題に積極的に取り組んでいくことを期待されることを考えると、彼らにとってこれらの体験は貴重なものとなると思います。

本プログラムでは、各ゼミナールでテーマを設定し、ゼミに所属する学生のグループが活動を進めて行くこととなりますが、時には学生同士の意見の食い違いや、ちょっとしたすれ違いが起きることもあります。このような体験も学生がさらに一回り成長する要素となります。ゼミで決めた研究テーマをまとめ上げるために、どのように他者とかわりながら取り組みを進めて行くべきなのか、この取り組みの中で自分の役割は何であるのか、などを考えながら活動を行っていくことで、チームで活動することの難しさだけでなく、チームで何かをやり遂げたことの充実感や達成感を味わうことができます。

長岡大学の「学生による地域活性化プログラム」では、学生が地域の皆様と一緒に汗をかき、考え、そして楽しむことで、目先の地域貢献活動だけでなく、将来にわたって地域の活性化を担っていける人材の育成を目指しております。

地域の皆様には、日頃より本プログラムへの多大なるご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

平成29年3月

はじめに

「まちの駅」をフィールドとした活動等による 地域活性化への貢献



長岡大学教授／ゼミ担当教員 鯉江 康正

鯉江ゼミでは平成 19 年度から、「まちの駅」をフィールドとして調査研究を行ってきております。

本年度の活動は、①まちの駅のコングセプトの整理と昨年度の活動の振り返り、②新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動、③「まちの駅全国フォーラム in TOKYO」への参加、④「新潟県内まちの駅交流会」の開催、⑤「越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議」への参加、⑥まちの駅や地域におけるボランティア活動への参加、であります。

「①まちの駅のコングセプトの整理と昨年度の活動の振り返り」では、まちの駅のことをほとんど知らない3年生に対して、昨年度の報告書を輪読する形で行いました。今年度は3年生が多く、かつ、積極性のある学生が集まっていることもあり、県内での全駅のパネル更新によるまちの駅の実態把握と様々なイベントへの参加をテーマに活動することに決定しました。合い言葉は『GO!』（女優・北川景子さんが主演する日本テレビ系連続ドラマ『家売るオンナ』より）です。その後、「ポケモンGO」も社会現象になりましたが。

「②新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動」では、県内のまちの駅 129 駅のうち 126 駅とアポを取ることができ、62 駅のパネル更新（ヒアリングに伺ったまちの駅は 37 駅、電話や fax による更新が 25 駅）を行いました。まさしく『GO!』です。作成したパネルを用いて悠久祭でパネル展も実施しました。併せて、数年ぶりに模擬店も行いました。事前に試食会という名目で前夜祭まで行いました。

「③まちの駅全国フォーラム in TOKYO」では、学生は、分科会「まちの駅のビジネス力」に参加し、着物（古着）による街おこしや代表的観光地からのまちナビカード事例を学びました。また、街の魅力を発信してまちづくりをすすめるマップ作りの方法も学びました。この経験が今年度の活動に好影響を与えたことは間違いありません。

「④新潟県内まちの駅交流会」を本学で実施しました。これは平成 26 年度に行った企画ですが、当時の学生はすべて卒業している中、以前の資料を確認しつつではありましたが、成果発表や懇親交流会でもゼミ生の存在を十二分にアピールできるものになりました。それに関連して「⑤越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議」でも、駅長さんや市の職員の方との連携を深めていました。

「⑥まちの駅や地域におけるボランティア活動」として、「ハロウィンみつけ」、「とうきび観音祭り」、「今町まちなかマルシェ」へも参加しました。とりわけ、ハロウィンでは実行委員として企画段階から参加できたことは学生にとって非常によい経験ができたと思っております。

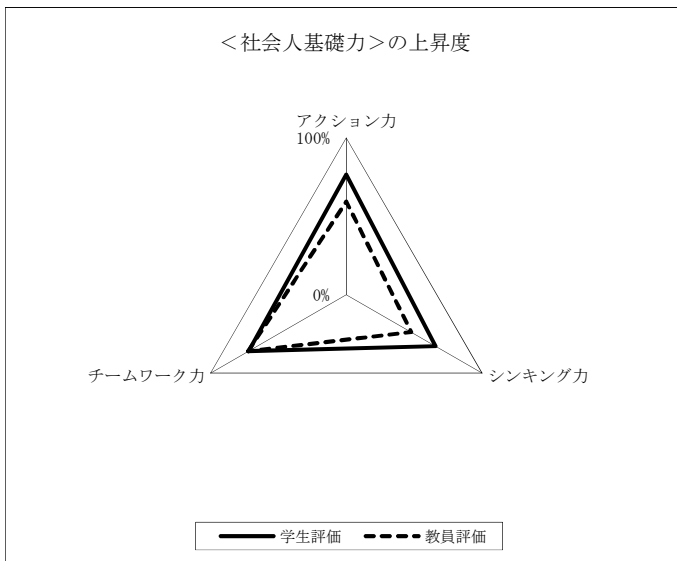
以上のように膨大な活動をしながら、助け合う心や感謝する気持ちをもち、次のステップに進めるようになった学生の成長記録でもある本調査研究報告を御一読いただければ、幸いに存じます。

なお、活動に当たっては「まちの駅里山ログハウス」の中川一男氏、長岡市市民協働推進部の岩嶋雄人氏をはじめ、県内外のまちの駅の方に多大なるご協力をいただいております。この紙面を借りて深く感謝申し上げます。

平成 29 年 3 月

平成 28 年度 学生による地域活性化プログラム 社会人基礎力の上昇度

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、社会人基礎力の向上、ビジネス展開能力の向上、専門的スキルの向上が目的である。平成 28 年度学生による地域活性化プログラムに参加した 8 取組の学生の「社会人基礎力」の伸び具合について、学生とゼミ担当教員にアンケートを実施した。アンケートは取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。学生は自己評価（有効回収 64）であり、教員は各ゼミ生についての評価である。



★「社会人基礎力」

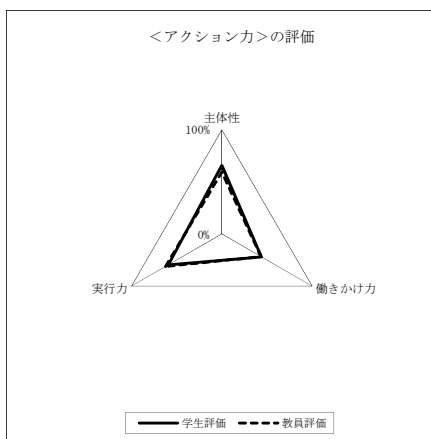
＝「アクションカ」「シンキングカ」「チームワークカ」が上昇

3つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間に乖離がある。学生の評価が高いのがアクションカで、地域活性化プログラムの取り組みの中で、学生が自分なりに挑戦している姿勢がうかがえる。

今後の取組においては、今年度の結果に現れている学生評価と教員評価の差を小さくすると同時に全体的な上昇度を高めていくことに対して、継続的に検討していく必要がある。

＜社会人基礎力＞の上昇度

	学生評価	教員評価
アクションカ	76.6%	59.4%
シンキングカ	65.6%	47.8%
チームワーク	71.9%	72.1%

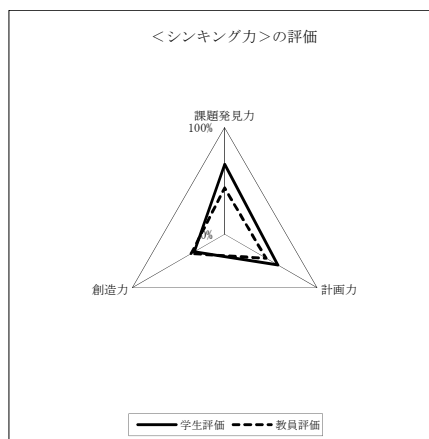


	学生評価	教員評価
主体性	65.6%	59.4%
働きかけ力	43.8%	43.5%
実行力	59.4%	62.3%

＜アクションカ＞

アクションカの3つの指標を比較すると、主体的には取り組めたと感じている学生の割合は高いが、教員の評価は低くなっている。

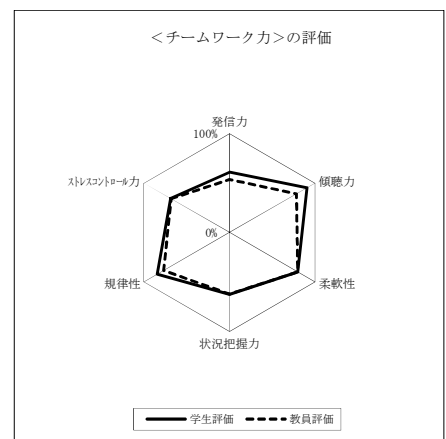
学生はそれなりに積極的に活動を行っていると感じている一方で、教員は、もう一歩踏み出してほしいという期待感を持っているようである。



	学生評価	教員評価
課題発見力	65.6%	43.5%
計画力	57.8%	44.9%
創造力	32.8%	36.2%

＜シンキングカ＞

学生の自己評価では、課題は見つけられたが、自分で計画して課題に立ち向かい、課題解決ができた学生は少なく、また創造力が極端に低くなっている。また、教員評価でも創造力については厳しいものになっている。昨年同様、シンキング力が弱い傾向があり、この点をどのようにして伸ばしていくかが課題として残った形である。



	学生評価	教員評価
発信力	60.9%	53.6%
傾聴力	90.6%	78.3%
柔軟性	79.7%	79.7%
状況把握力	62.5%	62.3%
規律性	84.4%	76.8%
ストレスコントロール力	68.8%	68.1%

＜チームワークカ＞

チームワーク力は、「アクションカ」や「シンキングカ」よりも学生評価と教員評価の類似性が高い。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要がある。

平成28年度 学生による地域活性化プログラム

鯉江康正
ゼミナール

「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献



【参加学生】 4年生 新保祐樺 小林川子 趙清宇
3年生 池田諒馬 江口枝里子 片桐湧太 木島俊久
小松綾乃 陈奥 田源一 中島なつ美
中曽根湧 楊婉蘭 横田百合江 鷲尾創太
2年生 鹿島大輝

【アドバイザー】 まちの駅里山ログハウス 駅長 中川一男氏
長岡市市民協働推進部市民協働課 主事 岩嶋雄人氏

今年の合い言葉は『GO!』 活動は楽しく。やらされてるから、自ら活動し地域貢献を。

＜取組1＞新潟県内のまちの駅の情報発信を目的とした活動

県内のまちの駅 129 駅のうち 126 駅とアポを取ることができ、62 駅のパネル更新（ヒアリングに伺ったまちの駅は 37 駅、電話や fax による更新が 25 駅）を行いました。数年ぶりに模擬店も行いました。



＜取組2＞まちの駅全国フォーラム in TOKYO への参加

国立オリンピック記念青少年総合センターで2日間にわたって行われた全国大会に参加して、「まちの駅のビジネス力」に関する分科会と地域の魅力を発信する「マップづくり講座」に参加しました。また、「新潟県内まちの駅交流会」を本学で実施しました。「越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議」にも参加しました。



＜取組3＞地域活性化活動への参加

「ハロウィンみつけ」、「とうきび観音祭り」、「今町まちなかマルシェ」へも参加しました。とりわけ、ハロウィンでは実行委員として企画段階から参加しました。右のリーフレットは学生がデザインしたものです。



「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献

鯉江康正ゼミナール

4年生

13K015 新保 祐樺
13E403 小林 川子
13M020 趙 清宇

3年生

14K005 池田 諒馬
14K013 江口 枝里子
14K019 片桐 湧太
14K026 木島 俊久
14K038 小松 綾乃
14K055 陳 奥
14K057 田 源一
14K062 中島 なつ美
14K063 中曾根 湧
14K082 楊 婉蘭
14K084 横田 百合江
14K087 鷺尾 創太

2年生

15K028 鹿島 大輝

目 次

1. 調査・研究の目的	1
2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミにおける調査・研究活動の概要	2
2.1 「まちの駅」の歴史と概要	2
2.1.1 「まちの駅」の歴史	2
2.1.2 「まちの駅」の概要	3
2.2 過年度ゼミにおける調査・研究活動の概要	4
3. 新潟県内の「まちの駅」の情報発信活動	7
3.1 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネルの作成	7
3.1.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順	7
3.1.2 ブレイクタイム	10
3.1.3 パネル作成から完成までの手順	11
3.1.4 パネルの紹介（一部）	13
3.1.5 まとめ	18
3.2 悠久祭	19
3.2.1 パネル展	19
3.2.2 模擬店	20
3.2.3 まとめ	21
4. 平成28年度まちの駅全国フォーラム in TOKYO	22
4.1 開催趣旨	22
4.2 まちの駅全国フォーラム参加の目的	22
4.3 参加した企画	22
4.4 まとめ	25
5. 新潟県内まちの駅交流会	26
5.1 概要	26
5.2 開催目的	27
5.3 まとめ	27
6. 越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議	29
7. まちの駅や地域におけるボランティア活動への参加	30
7.1 ハロウィンみつけへの参加	30
7.1.1 概要	30
7.1.2 参加目的	32
7.1.3 主なイベント概要	32
7.1.4 まとめ	33
7.2 とうきび観音まつりへの参加	37
7.3 今町まちなかマルシェへの参加	38

8. ウェブページの更新..... 40

9. とりまとめ..... 41

〈謝辞〉

〈参考文献〉

1. 調査・研究の目的

平成28年度4月時点で、新潟県内の「まちの駅」の開設数は129駅である。地域の開設数の内訳では、長岡市59駅、見附市40駅、糸魚川市13駅の他にも新潟市や五泉市、十日町市などにも「まちの駅」がある。

過去の鯉江ゼミナールでは、全国のまちの駅へのアンケート調査や新潟県内のまちの駅を調査対象とした「おもてなし事例調査」等を実施してきた。

今年度は、『「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献』をテーマとして、新潟県内まちの駅の調査・研究と地域活性化活動（ボランティア）を行った。活動の目的としては、それらの活動を通して地域を盛り上げることである。

まちの駅の調査・研究では、各駅へヒアリングを行い、調査内容をパネルとしてまとめ（今年度は県内全駅のパネル更新を行った）、学園祭やアオーレ長岡市民協働センター（ながおかまちの駅）で展示、ホームページで掲載し、多くの方に「まちの駅」を知って頂くことを試みる。そのことで、まちの駅の認知度を上げ、まちの駅やその地域へ足を運んでもらうことを期待して地域の盛り上げを図っていくことを目的とする。

地域活性化活動（ボランティア）では、まちの駅を通じて地域イベントの運営に参加、加えて今年度の「ハロウィンみつけ」では、企画段階から実行委員として参加する。企画・運営を通じてイベントを盛り上げ、また地域の人々との交流を深めていきたい。

私たち自身が地域を盛り上げるだけでなく、上記の活動を通して「まち」を知る。その上で、新たに地域活性化の方法を模索することで更なる地域活性化へつなげていくことも目的とする。今年度のヒアリング調査では、長岡19駅、見附12駅、糸魚川2駅、新潟2駅、魚沼1駅、五泉1駅の合計37駅のまちの駅にヒアリングを実施した。ヒアリング調査後に「まちの駅紹介パネル」を作成し、悠久祭でのパネル展や地域活性化プログラムのホームページに掲載して情報発信していく。また今年度は、一昨年に制作した「新潟県内まちの駅」126駅のまちの駅紹介パネルの修正・更新を実施した。

本報告書の構成は以下のとおりである。

第2章では、まちの駅の歴史と概要、鯉江ゼミナールが過去に行ってきたまちの駅の調査・研究活動の概要について紹介する。

第3章では、まちの駅におけるヒアリング調査とパネル作成、悠久祭でのパネル展示、および模擬店の出店について紹介する。

第4章では、全国からまちの駅の駅長さんが集まる「まちの駅全国フォーラム in TOKYO」について、フォーラムでの流れ、参加したプログラムを紹介する。

第5章では、新潟県内まちの駅の駅長さんをお呼びして、長岡大学にて開催した「新潟県内まちの駅交流会」について紹介する。

第6章では、まちの駅長さんや市役所の方々と交流した「越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議」について紹介する。

第7章では、まちの駅の調査を通じて参加した地域におけるボランティア活動について紹介する。

第8章では、まちの駅の紹介パネルを掲載するホームページの更新について紹介する。

第9章では、これまでの活動を振り返りとともに来年度への展望を述べ、とりまとめとする。

2. 「まちの駅」の概要と過年度ゼミにおける調査・研究活動の概要

2.1 「まちの駅」の歴史と概要

2.1.1 「まちの駅」の歴史

「まちの駅」は、「まちの案内所」「地域の茶の間」として、既存の施設、空間（公共施設・民間施設）を自発的に開放する活動として、平成10年からスタートされたものである。各地の「まちの駅」では「郷土愛」や「人間愛」をもった駅長・駅員（まちの案内人）が、地域の人や来訪者を「もてなしの心」で迎えるとともに、地域のちょっとした魅力を発信している。駅のネットワークにより地域全体の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅同士の交流・連携が進められている。

「まちの駅」が開設された歴史については、文献4に以下のように整理されている。『「まちの駅」は、「道の駅」の発想から変化していったものだ。「道の駅」は道路空間の一部と位置付けられ、国道・幹線道路沿いに設置される公共インフラとしてスタートしましたので、国道沿いに使える土地がない場合や、国道沿いではない場所に作りたいと考えても、「道の駅」は作れない。また、地域連携軸の構築という考え方の中で、「道の駅」が地域間連携の拠点となる機能を果たすと考えていましたから、「道の駅」を設置できない市町村では、同じ機能を果たす「連携センター」を作る必要があると考えた。そこで、一市町村一箇所の設置を想定して、平成10年に「連携センター」の仮設実験を行った。新たに整備するための助成制度もなかったため、既存の公共施設を活用・開放して、その中に「地域連携機能」を置くという考えた方だった。中部横断自動車道の早期完成を求める静岡・山梨・長野の33の市町村で形成する「中部西関東地域連携軸協議会」では、市役所や公民館、ホールなどを活用して、「連携センター」の実験を行い、地域連携軸の形成を検討した。また、「連携センター」の正式名称を公募ガイドで募集したところ、2,700もの応募があった中で、シンポジウムの中でも議論をして、その結果「まちの駅」の名称を使うことに決定した。

その後、富山県高岡市の伏江努氏から株式会社として「まちの駅」に参画したいという要請があり、民間経営第1号の「まちの駅たかおか」が生まれた。

官の中に民間の発想や運営原理が入ると、議論のあり方が変わっていく。さらに、福岡県甘木・朝倉地域の上野春樹氏、手嶋隆行氏からは、「まちの駅」を街中に多く作って日常的に人が交流できる語らいの場にしたいという提案が出された。新しい発想を得て、「この指とまれ方式」で、商店や民間施設も含めた公募による「まちの駅」の実験事業が、21施設の参加を得て行われた。その結果、多くの賛同を得て、民間施設の活用（開放）を中心に設置するネットワーク型まちの駅が、福岡から始まった。

設置賛同者が増えたところで、平成12年に「まちの駅連絡協議会」を立ち上げ、認証・登録を始めた。現在、全国に約1,550の「まちの駅」が設置されている。』（文献4）

2.1.2 「まちの駅」の概要

本節は、まちの駅連絡協議会の「<http://www.machinoeki.com/>」を参考にまとめたものである。

(1) まちの駅の考え方

まちの駅を一言でいうと「公共施設からまちかどのお店まで、既存の施設・空間に設置できる、人と人の出会いと交流をサポートする、まちの情報発信拠点」である。そのコンセプトは、「ひと・テーマ・まちをつなぐ拠点」であり、具体的には次の4つの側面を持っている。

★人と人の出会いと交流を促進する、ヒューマンステーション

「まちの駅」とは、地域住民や来訪者が求める地域情報を提供する機能を備え、人と人の出会いと交流を促進する空間施設である。また、まちづくりの拠点となり、まちとまちをつなぐ役割を持つものである。人と人をつなぐ場であるということから、ヒューマンステーションと呼ぶことができる。

★まちの窓口、サロン機能などの機能を有する空間

機能は、まちの窓口としての案内機能（窓口機能）、人の交流を促進する交流機能（サロン機能）などを持ったものである。そして、何よりも重要なことは、その拠点が何らかのテーマを持っており、オープンな空間であるということである。

★まちづくりテーマをつなぐ、テーマステーション

それぞれの「まちの駅」には活動テーマがあり、そのテーマを連携させることで、豊かなまちづくりに貢献することができる。人々が運営する諸施設のテーマには、福祉、医療、アート、教育、スポーツ、観光、農業、海など、様々なものがある。「道の駅」はドライバーの休憩拠点というのが大きなテーマであり、「道の駅」も「まちの駅」のひとつと考えることができる。「まちの駅」は、テーマとテーマをつなぐ場であるということから、テーマステーションと呼ぶことができる。

★行政・民間を問わない設置・運営形態

「まちの駅」は主に、既存施設を活用して設置することを想定しており、その設置・運営主体は行政・民間を問わない。行政版の「まちの駅」と、民間版の「まちの駅」が連携することで、大きなネットワークができる。民間版の「まちの駅」にこそ自由な工夫が許されるといえる。

(2) まちの駅の機能

具体的には公共・民間を問わず、広く人々が入ることができる施設がまちの駅となり、トイレ・休憩場所等を来訪者に提供するものであるが、現在全国のまちの駅のほとんどは小売店舗である。また、まちの駅となった施設内には観光パンフレット等が備えられており、施設の代表者や従業員がまちの案内人となって来訪者に観光地等への道案内を行うこともある。

まちの駅設置要項によれば、まちの駅の機能として以下の4つがあるとされている。

- ・ 休憩機能：誰でもトイレが利用でき、無料で休憩できる。
- ・ 案内機能：まちの案内人が、地域の情報について丁寧に教える。
- ・ 交流機能：地域の人と来訪者の、出会いと交流のサポートをする。

- ・ 連携機能：まちの駅間でネットワークし、もてなしの地域づくりをめざす。

道の駅とまちの駅は、地域への来訪者にトイレ・休憩場所を提供し、観光案内等様々な情報を発信するという機能面ではよく似ている。しかし、まちの駅は以下のとおり道の駅とは違った特色を持っている。

- ・ 設置主体に制限がない。
- ・ 道の駅を設置することができるのは、「市町村または市町村に代わり得る公的な団体であること」とある。つまり民間では設置することができない。
- ・ それに対してまちの駅は、行政であれ民間であれまちの駅として必要な基準を満たしていれば設置が可能である。
- ・ 設置場所に制限がない。

(3) 名称およびシンボルマーク

三つの山のようなマークは「人」を表す。一つ目の山は「よそ者」、二つ目は「ばか者」、三つ目は「わか者」を表している。

真ん中の「i (アイ)」はインフォメーションを表している。つまりこのマークは「いろいろな人が集まり、出会いが生まれ、まちや地域のことを教えてくれる人がいる場所」を意味している。まちの駅は、このマークの本来の意味を保つためにも、人同士・駅同士の「交流」が何よりも大切である。



各まちの駅は、その理念を共有した上で、地理的条件、運営主体、運営目的などに応じて、個性ある名称を名付けることができる。ただし、全国共通のシンボルマークを併記することが必要である。全国共通のシンボルマークは「まちの駅連絡協議会」に入会した者で、かつ一定の条件を満たした施設に使用が認められている。

2.2 過年度ゼミにおける調査・研究活動の概要

本ゼミでは平成19年度より、「まちの駅」をテーマに調査研究活動を行ってきた。その概要は以下のとおりである。

<平成19年度>

①文献・資料調査により「まちの駅」の歴史と概要を整理し、②文献・資料調査及びヒアリング調査により、長岡市における「まちの駅」の現状と課題をまとめ、③「まちの駅 長岡大学」の活性化に向けて以下の4つの提言を行った。

提言1：交流会への積極的参加と学生への情報発信

提言2：教職員及び学生による「まちの駅 長岡大学」活性化協議会の設置

提言3：学内での「まちの駅 長岡大学」の認知と予算・人的協力体制の構築

提言4：学校施設の積極的解放と学外への情報発信

<平成20年度>

平成19年度の調査を受ける形で、①全国の「まちの駅」へのアンケート調査の実施、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を行った。活動②及び③は学園祭（悠久祭）で実施したが、③につ

いてはG P（平成 19 年度採択、現代的教育ニーズ取組支援プログラム「学生による地域活性化提案プログラム—政策対応型専門人材の育成」）の活動ではなく、ゼミ独自の活動として行った（補助金の対象外）。

<平成 21 年度>

平成 20 年度のアンケートの調査結果及び、アドバイザーになって頂いている『長岡市民センター』の職員の方のすすめを受けて、①富土地域、会津地域、本庄地域の「まちの駅」にヒアリング調査を実施した。あわせて平成 20 年度同様、②長岡市の「まちの駅」のパネル及び商品の展示、③「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）を実施した。昨年度のヒアリング調査からは以下の 3 点の提言を行った。

提言 1：マスコットの募集と作成

提言 2：パスポートの作成

提言 3：ウォーキングイベントの実施

上記以外にも、「まちの駅」やG Pを通しての活動をパネルにし、学内に展示するなど多くの活動を行ってきた。その結果、平成 19 年度には学生にほとんど知られていなかった「まちの駅」が、今ではほとんどの学生がその存在を知るようになっている。また、図書館や駐車場の一般開放など実行に移された提言もある。

<平成 22 年度>

長岡市内にある全ての「まちの駅」（平成 22 年調査時 50 ヲ所）でヒアリング調査を実施し、その内容を学生の視点でまとめた紹介パネルを作成した。作成したパネルは学園祭（悠久祭）でのパネル展として展示し、多くの人に足を運んで頂いた。そして、例年同様に「まちの駅」の食材を使った模擬店（豚汁とおにぎりの販売）も行った。

また、越時計店の協力を経て、大手通りにあるブロンズ像を使ったカレンダーを作成し、「まちの駅」のパネルと同様にホームページでの配信を行った。

その他にも様々なイベントに参加し、和島地域で行われたイベントでは平成 21 年度の提言であるウォーキングイベントも実施された。

<平成 23 年度>

平成 23 年度は、「越後長岡まちの駅ネットワーク」の情報と「まちの駅」の活動がまちの駅の方にどのような意識の変化をもたらしたのかを地域づくりの観点から検証した。

長岡地域の「まちの駅」が 50 駅から更に 7 駅増え、57 駅になった。既存の駅については、再度ヒアリング調査を行い、変更箇所などを直しパネルを新たにリニューアルした。新たに加わった 7 駅については、まちの駅になった経緯やお店の P Rなどをヒアリング調査し、新たなパネルを作成した。例年同様に、作成したパネルは学園祭でのパネル展として展示し、「まちの駅」の食材を使った模擬店（炊き込みご飯と味噌汁の販売）も行った。

併せて、23 年度はまちの駅の活動をとおして、その活動に参加している人々のまちづくりに関する意識がどう変わったかを検証するために、『「まちの駅」の活動による地域づくりに関する意識調査』を実施した。

<平成 24 年度>

平成 24 年度は、新たに見附地域の「まちの駅ネットワークみつけ」を対象にヒアリング

調査、アンケート調査を実施した。ヒアリング調査は、見附地域の全ての「まちの駅」に実施し、まちの駅になったきっかけ、お店のPRを中心にお聞きした。ヒアリングで聞いた内容でまちの駅紹介パネルを作成した。作成したパネルを学園祭でのパネル展として展示し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。学園祭の模擬店では、まちの駅の食材を使い「麻婆丼」の販売を行った。

アンケート調査ではまちの駅の交流力、経済効果、影響力の3つをテーマにしてアンケートを実施した。その結果、地域へ様々な面で貢献していることがわかった。

<平成 25 年度>

平成 25 年度は、平成 24 年度までに制作した「越後長岡まちの駅」54 駅と「ネットワークみつけ」36 駅のまちの駅紹介パネルの修正・更新を行った。併せて、糸魚川地域のまちの駅 10 駅にヒアリングを実施、長岡 5 駅、見附 2 駅に新たにできた「まちの駅」にもヒアリングを実施した。ヒアリング調査後に「まちの駅紹介パネル」を作成し、悠久祭でのパネル展や地域活性化プログラムのホームページに掲載して情報発信を行った。

また、新潟県内の全てのまちの駅にアンケート調査を実施し、施設別での分析と長岡や見附などの地域ごとでの分析を行った。

<平成 26 年度>

平成 26 年度は、新潟県内の新たにまちの駅となった駅や未調査の駅（21 駅）をヒアリング調査した。ヒアリングでは、駅名や住所、電話番号などの基本項目の確認、店または施設の紹介・PR、まちの駅になった理由などをお聞きし、これらの情報を基にパネルを作成した。パネルは、それぞれの駅の基本情報や駅長からのメッセージ、駅の様子が見える写真などを載せた。また、学生それぞれが思い思いの「学生のつぶやき」を載せることで、よりそのまちの駅に興味を持ってもらえるようにした。そして、作成したパネルは学園祭（悠久祭）でのパネル展として展示し、まちの駅からの物品もパネルと共に展示した。

まちの駅全国大会に参加し、全国のまちの駅の方との交流を通して、各地域の取組や課題を共有化できた。

<平成 27 年度>

平成 27 年度は、新潟県内新たに開設された糸魚川、三条、上越、越路、新潟（各 1 駅）の 5 駅と、長岡市の組織変更により変更があった「ながおかまちの駅」の合計 6 駅をヒアリング調査し、パネルを作成した。

また、昨年度の成果発表会でアドバイザーの方から依頼された「各まちの駅がどのようなおもてなしをしているのかを調査し、各まちの駅の今後の活動の参考によるような情報を提供してほしい」に対応するために、新潟県内 127 のまちの駅に「おもてなし事例調査」を実施した。調査の目的については、①まちの駅としてのおもてなしの現状把握、②まちの駅になってよかった点、③自分のまちの駅や駅長さん自身がこれからどのような行動をしたらよいと考えているか、を知ることである。なお、アンケートの有効回収数は 82 駅であり、回収率は 64.6%であった。アンケートから、各まちの駅は、基本的な機能を果たしながら、来られたお客様に「おもてなし」の心で対応していることが分かった。

3. 新潟県内の「まちの駅」の情報発信活動

3.1 新潟県内の「まちの駅」のヒアリング調査・パネルの作成

今年度は、活動の一つとして、新たにまちの駅として認定された駅（以下「新駅」とする）を中心にまだパネルを作成していないまちの駅のヒアリング調査及びパネルの作成と、過去に調査したまちの駅のパネル更新作業を行った。書面のみでの更新作業と駅長さんが変わったなどの理由から、集合写真を差し換えるため再びヒアリングに伺う更新作業の2種類があった。

今年度、更新を行った駅は62駅であり、そのうち、ヒアリングに伺ったまちの駅は37駅（うち、新駅が6駅）、紹介文のみの更新が25駅である。

3.1.1 ヒアリング調査を実施するまでの手順

ヒアリング調査を実施するまでに行った作業の手順は以下の通りである。

<手順① リスト作成>

新潟県内のまちの駅のリストを作成した。

過去に使用したリストと「全国のまちの駅連絡協議会」ホームページ内にあるまちの駅帖を参考に作成した。この時点で、「まちの駅帖」に掲載されている住所や電話番号などが間違っているところが多く、思いのほか大変な作業となった。

<手順② パネルに関する確認文書の送付>

今年度は新潟県内にあるすべてのまちの駅にパネルの作成・更新に関する文書を送付した。

パネルがすでにある駅には更新を希望するか、その際ヒアリングが必要であるかについての確認を取る文書を、過去に作成した各駅のパネルと共にお送りした（「すでにパネルのある駅にお送りした文書」参照）。新駅には、ヒアリング調査を行いたいという旨の文書を昨年の報告書とともに送りした（「新駅にお送りした文章」参照）。

<手順③ 必要な対応のチェック>

返信があった封書をチェックし、次の活動につなげようとしたが、返信の期限を設けなかったため、多くの駅に催促のお電話をすることとなってしまった。その際、自身の施設がまちの駅だと知らない、分からない従業員の方が出られたり、代表の方が不在であったりなど、思うように作業が行えなかった。

<手順④ アポイントメント>

新駅とヒアリングを希望される駅にヒアリング調査のアポイントメントを取った。この時も代表の方が不在であるなど苦労が多かった。

アポ取りから実施までの期間が短かったため、相手先にご迷惑をかけてしまったところもあった。また、各まちの駅の事前調査も十分に行えなかった。

まちの駅紹介パネルの更新について

長岡大学 鯉江ゼミナール

学生責任者 片桐湧太

拝啓

時下いかがお過ごしでしょうか。

鯉江ゼミナールでは、「まちの駅」をテーマに活動を続けております。今年度は、過去に作成した新潟県内のまちの駅の紹介パネルの更新を計画しております。つきましては、下記の選択肢の中から対応を選択され、チェックを入れて下さい。更新後の内容確認等はFAXで行いたいと考えておりますが、写真や内容を更新する際にヒアリングが必要となった場合には、後日、連絡をさせていただきますので、ご協力をお願いします。

修正後のパネルは悠久祭（長岡大学学園祭、10月29日（土）、30日（日）に実施）で展示いたしますので、お時間がございましたら是非お越しく下さい。

お手数をおかけしますが、ご協力をお願い致します。

敬具

まちの駅名	
住所	〒
TEL	
FAX	
E-mail	

修正・変更が無い場合も下記の「修正変更等なし」にチェックし、返信をお願いします。

このパネル上での一部更新（パネルに変更部分をお書きください。）

ヒアリング希望

修正・変更等なし

現在は「まちの駅」ではない

<連絡先> 〒940-0828

新潟県長岡市御山町 80-8 長岡大学 地域連携研究センター 山田

TEL : 0258-39-1600 (代) FAX : 0258-39-9566

すでにパネルのある駅にお送りした文章

新潟県内「まちの駅」駅長様

長岡大学鯉江ゼミナール 鯉江康正

鯉江ゼミナール まちの駅調査活動ご協力をお願い

拝啓

はじめまして、私は長岡大学の鯉江ゼミナールの担当教員の鯉江と申します。

鯉江ゼミナールでは、平成 19 年度から「まちの駅」をテーマに、ヒアリングやアンケート調査を実施してきました。「越後長岡まちの駅」から始め、昨年度は、県内まちの駅を対象に同様の調査をしました。今年度は、すでに作成済みのパネルの更新とまだ作成の終わっていないまちの駅のパネル作成を計画しております。

つきましては、パネル作成のため、まちの駅担当の方にお話を伺いたいと思います。お忙しい中大変恐縮ですがご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

敬具

<ヒアリング内容>

- ☆ 貴「まちの駅」のご紹介およびアピールポイントをお聞きします。
- ☆ 周辺地域の若者が集う場（お店等）をご紹介ください。
- ☆ 周辺地域の地域資源（観光スポット、デートスポット等）をご紹介ください。

<ヒアリング予定>

- ☆ ゼミ学生より、後日アポイントの連絡をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

<同封参考資料>

- ☆ 平成 26 年度および平成 27 年度「ゼミ活動報告書」

<連絡先>

〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8

長岡大学 地域連携研究センター 山田

TEL: 0258-39-1600 (代)

FAX: 0258-39-9566

新駅にお送りした文章

<手順⑤ ヒアリングの実施>

夏季休暇を利用しヒアリング調査を実施した。まちの駅を始めたきっかけやそのまちの駅の特長、その地域のおすすめスポットなど色々なこととお伺いした。

パネルを作成する時に、文章の内容はもちろんのこと、文章や写真の位置、背景などといったデザイン面をどうしていくかなど駅長さんと話し合った。どの駅も温かく対応していただき、初めは不安であったヒアリング調査も慣れていくことができた。



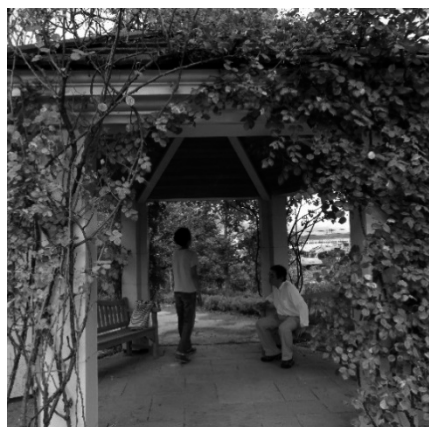
ヒアリング時の様子

3.1.2 ブレイクタイム

まちの駅へヒアリングに伺った際、駅長さんからのおすすめでヒアリングと併せて空き時間を利用して地域の観光場所にも訪問した。その地域の歴史・文化にまつわる場所や歴史・文化問わずその地域の人気の場所に訪問し、普段あまり訪れることができない場所に行けたため、楽しみながらその地域の魅力を再発見することができた。

我々としては、まちの駅のヒアリング活動がメインであるため、一見関係のないように思えるが、このような各まちの駅周辺の観光場所に訪れる活動が意外にもアドバイザーの方々を中心に高い評価をいただくことができた。そこで気づいたことは、それぞれの地域にはまだまだ知らない魅力がたくさんあるということである。まちの駅の活動を広めてい

くことに加えて、駅長さんおすすめの地域の観光場所に訪れ、またそれを広めていくことにより、その地域が地域としての魅力・絆をより強めていくのではないと思われる。つまり、この活動が地域の共助に役立ち地域活性化につながっていくと思われる。



オススメスポットに
行った様子

3.1.3 パネル作成から完成までの手順

パネルの完成までの手順は以下の通りである。

<手順① 情報整理>

まずヒアリング調査で得た情報を各自でまとめた。

<手順② パネルの作成>

Powerpoint を使用しパネルを作成した。「一部更新」のパネルは頂いた文章や資料を基に作成した。ヒアリング調査を行った駅のパネルは、頂いた資料やまとめた内容を基に作成した。新駅は前例がなく、一からの作成なのでデザインを考えるのが大変であった。また、実際に印刷してみると文字の大きさや全体の雰囲気などがパソコンのディスプレイで見た時と違っており、何度も作り直した。

今年度からすべてのパネルに地域名を入れることになった。

<手順③ 仮完成>

完成したパネルを各駅に FAX（「FAX 送信書」を参照）でお送りし、内容やデザインなどを確認していただいた。

<手順④ パネルの修正>

「修正あり」と返信を頂いた駅に関しては、電話で修正箇所の確認をした。内容としては、文章の修正や文字の大きさなどのデザイン面が中心であった。該当箇所を修正したパネルを再度 FAX でお送りした。

<手順⑤ パネルの完成>

駅長さんの OK を頂いて完成である。それぞれのまちの駅や地域の特徴・個性が出せるよう工夫しパネルを作成した。例えば、「ながおかまちの駅」には背景に花火を入れた。糸魚川地域では、地域名を入れる欄を勾玉にするなど工夫した。

FAX 送信書

送信先:	発信元: 長岡大学地域活性化プログラム
御中	鯉江ゼミ
送付枚数: 2 枚	
FAX 番号	日付: 1/10/2017
件名: まちの駅紹介パネルの 修正について	

いつもお世話になっております。

鯉江ゼミのまちの駅調査活動にご協力いただき、ありがとうございます。

まちの駅の紹介パネルを作成いたしました。ご確認をお願いいたします。

お手数でも、「修正なし」「修正あり」のどちらかに✓をつけて、このまま FAX でお送りください。「修正あり」の場合は、後で確認のお電話をさせていただきます。

ご多忙中恐縮ですが、よろしくをお願いいたします。

返信 FAX 番号 0258-39-9566

修正なし

修正あり : 後でお電話を差し上げます。

【ご担当者 様】
【電話番号 〇〇〇〇】

〒940-0828
新潟県長岡市御山町 80-8
TEL. 0258-39-1600 FAX. 0258-39-9566

長岡大学
地域連携研究センター

確認のためにお送りした FAX 送信

3.1.4 パネルの紹介

(1) 更新パネルの紹介

どのような更新を行ったのか、更新前と更新後の二つを一部紹介する。



<変更点>

- ・ 今年度のヒアリング内容を基に文章と写真を変更
 - 情報をより最新に近づけ、デザイン面を明るくした。
- ・ 「長岡花火」をイメージして背景を花火に変更
 - そのまちの駅にあった個性・特徴を活かすパネルに仕上げた。
- ・ 「pepper 君」を追加
 - 目を引く写真、面白さを取り入れた。

(2) 新駅の紹介

今年度ヒアリングとパネル作りを行った新駅を2駅紹介する。

(2-1) まちの駅ひすいの海

「ひすいの海」は糸魚川市にあるまちの駅です。落ち着いた雰囲気のカフェで、どなたが寄っても受け入れるという考えでやっているそうです。そのため、地元の落語家やバンドの方などがここでライブを開催することがあります。ここで生まれたアーティストもいるそうです。

刺激を受けながら成長できる場（交流の場）を提供したい、田舎でも楽しめるんだという思いでお店を始めたそうです。しかし、赤字が続き一度閉めてしまったそうです。今は、背伸びをしない、赤字を出さない、ありのままでやっていこうと頑張っているそうです。

駅長さんは糸魚川の歴史や自然に詳しい方で、糸魚川ジオパーク検定もお持ちです。また、とても親切な方です。駅長さんの親切心はアルバイトの人たちにも受け継がれており、私たちがヒアリングをしている際、こっそりパンケーキを作ってください、ご馳走して頂きました。とても美味しかったです。

駅からも近い位置にあるので、糸魚川に行かれた際には是非立ち寄ってみてください。



糸魚川
地域

まちの駅

ひすいの海

まちの駅の紹介

2016年の8月からリニューアルをしたこちらの駅は、ゆったりとした雰囲気の落ち着いたカフェです。おいしいランチやスイーツがありますよ！

また、毎週土曜日にはライブが開催されています。地元のバンドや落語家の方などが来られます。

メニューとアーティストが気になる方はホームページをチェックしてみてください。



駅長の利根川さんとアルバイトの高校生さんとの集合写真

お店の雰囲気はこのような感じです



メニュー表にはない特別メニューをごちそうになりました。
美味しかったです！！



学生をつぶやき

駅長の利根川さんは元々糸魚川の方で、帰ってきた際に糸魚川について改めて知ろうと思って勉強されたそうで、糸魚川の歴史にとっても詳しく、地元の祭りの由来などのお話しをしてくださりました。大変勉強になりました。(ジオパーク検定も持っています)

私たちがこちらの調査をしている時にお客様が来られたのですが、メニューを丁寧に説明したり、お体を気遣ったりなど素敵な接客をされていました。こちらでバイトをしている生徒さんが、私たちにメニューにはないパンケーキを作ってご馳走してくださいました。このサプライズには利根川さんも驚いていました。とても美味しかったです。

14K026 木島俊久

〒941-0058
糸魚川市寺町2-7-7
TEL FAX 025-556-9100
営業時間 11:00~21:00
定休日 水曜・日曜日
URL: <https://sites.google.com/site/hisuinoumi/>



Googleマップより

この看板が目印



平成28年度作成

「まちの駅 ひすいの海」作成パネル

(2-2) まちの駅雲蝶の郷内田邸

「まちの駅雲蝶の郷内田邸」は魚沼市にあり、同市では初のまちの駅です。古民家を活用し、囲炉裏や畳など落ち着いた雰囲気のある場所です。まちの駅では、地元魚沼産のコシヒカリや野菜、木工品や陶芸品などの展示・販売を行っており、地元野菜を使ったレシピの提供などもしています。

また訪れた際には、まちの駅の方々からの厚いおもてなしを頂くことができました。私達がヒアリングに伺った際は、魚沼産コシヒカリを使ったご飯や野菜のスープなどを頂きました。食以外にも、まちの駅の方々と気さくにお話ができ交流の面でも楽しめます。まちの駅の厚いおもてなしと落ち着いた雰囲気が相まって、1時間以上滞在される方もいるそうです。私自身も長時間滞在したいと感じるほど居心地が良かったです。まちの駅の方からおもてなしを頂き、「交流」という面でまちの駅の良さを改めて実感しました。

それ以外には、駅長さんの語りや観光案内などを行っています。まちの駅のすぐ近くに西福寺という寺があります。その寺に彫刻を残した石川雲蝶と魚沼の出会いについて、駅長さんが丁寧に説明してくださいました。私の感想としては、紙芝居による語りで内容が分かりやすく、石川雲蝶の作品を見る前に立ち寄ることをおすすめします。作品のとらえ方が変わるはずですよ。

観光案内としては、魚沼市のパンフレットを置いており道案内も行っています。まちの駅の方の紹介で、私達は魚沼市の永林寺に伺いました。

魚沼市を訪れた際やゆっくりくつろぎたいと感じる方は、是非「まちの駅雲蝶の郷内田邸」に立ち寄ってみてください。



魚沼
地域

まちの駅雲蝶の郷内田邸 【大浦雲蝶会】



〒946-0033
魚沼市大浦292番地1
TEL:025-792-0854
FAX:025-792-0854
営業時間：10:00～16:00
営業日：毎週日曜日
(日曜日以外は基本休日、ただし
連絡があれば平日営業も可)



このヤミーアイス
(ラズベリー味)は
ここでしか食べら
れません！
味が濃く、美味し
いので一度ご賞味
ください！



学生のつぶやき

ヒアリングに伺った際に、まちの駅の方々のご厚意で、魚沼産コシヒカリやバターナツカボチャのスープなどを頂きました。そのおもてなしには本当に驚きました。まちの駅の方々との交流は楽しく、長時間でも居たい場所だと感じました。

14K019 片桐 湧太

平成28年度作成

《まちの駅の紹介》

まちの駅雲蝶の郷内田邸は、西福寺から徒歩1分にある人・もの・情報の交流拠点です。魚沼産のコシヒカリや野菜、地元の木工品や陶芸品などの展示・販売を行っています。また、コーヒーやお茶等のサービスを受けることができます。

その他にも、まちの駅には語り部の方がおり、魚沼と石川雲蝶の出会いを説明していただけます。西福寺を訪れる際は、語り部の方の話を聞いてから行くのがおすすめです！

それ以外にも、魚沼のパフレットがあり観光案内も行っていきます。



Googleマップより

まちの駅の方々 からのメッセージ

まちの駅には、大人数よりも小人数で行くことがおすすめです！

「まちの駅雲蝶の郷内田邸」作成パネル

その他の新駅は以下の通りである。

- ・ 『接骨・整骨の駅』（見附市）
- ・ 『元気の駅』（見附市）
- ・ 『洋食の駅』（見附市）
- ・ 『ふれあい空間いろりはうす』（新潟市）

なお、新駅のパネルおよびこれまでに作成したパネルは、「8. ウェブページの更新」で紹介する長岡大学のホームページから閲覧できます。

3.1.5 まとめ

これまで、まちの駅へのヒアリング活動からパネル作成について述べてきた。以下、これらの活動を通じて気づいた反省点・今後の課題を整理して、この節のまとめとしたい。

★スケジュールが詰まってしまう、アポ取りなどに遅れが出てしまった。

今年度の活動を活かし、先を見据えて計画を立てていく。また、そのために計画を立てやすい環境・状況を作っていくことも必要になってくると考える。

★ヒアリングに伺えなかった駅があった。

こちらから文章をお送りし、「ヒアリング希望」と返信を頂いたにも関わらず、こちらのスケジュールの都合でヒアリングに伺えなかった。これはもっと早い段階から各まちの駅に文章をお送りし、返信を頂き改善していきたい。

★各まちの駅や「まち」について自発的に調べておくべきだった。

今後はヒアリング調査に伺う前に、ヒアリング箇所の駅について、またその駅がある「まち」についての文化や歴史、特徴、何を売っているお店なのかを調べておく必要がある。

これにより、ヒアリング時に駅長さんにより良い、より深い質問ができたのではないかと考える。それにより得た情報で他者が作れないような学生目線でのより深いパネル内容に仕上がったはずである。

また、自発的に調べることにより、その「まち」の魅力も再発見できたのではないかと考える。

★腰が重いまちの駅駅長さんとどうお付き合いしていくか。

あらゆるまちの駅にヒアリング調査に伺う中で、腰の重い駅長さんにどのようにして自分たちの活動を知ってもらうかが課題となる。まちの駅は「交流」「つながり」が重要になるため、そこといかに関連させていくかについても検討すべきである。

これらのことを踏まえ、今後のヒアリング調査をより一層良いものとしていきたい。

最後にこのヒアリング調査では、多くの新潟県内のまちの駅様に大変お世話になりました。この場を借りて御礼を申し上げます。

3.2 悠久祭

(1) 概要

この企画は平成 20 年度から始まっており、今年度で 9 年目である。平成 20 年度は長岡市内の 29 のまちの駅を対象に行ったが、今年度には新潟県内の 126 駅のまちの駅のパネルを展示した。

今年はパネル展に加え、模擬店も出店した。模擬店では水餃子と湯圓（ゴマ入り団子）を販売した。

(2) 日時

平成 28 年 10 月 29 日（土）～30 日（日）

(3) 場所

パネル展…長岡大学 2 1 6 教室

模擬店…三号館側屋外



今年度のまちの駅パネル展の様子

3.2.1 パネル展

(1) パネル準備

今年度は、126 駅中 62 駅のパネルを更新・作成し、パネルを地域別に分け、見やすいように展示の準備をした。

(2) パネル展当日

ゼミ生 2 人がチームとなって、午前と午後に分かれてパネルの説明や来場者数のカウントを行い、来場者には模擬店の情報を書いた整理券を配布した。



前日準備後の集合写真

(3) パネル展取組結果

今年度のパネル展来場者数は 390 名であった。昨年より大幅に上回る結果となった。1 日目は寒かったが、2 日目は天候も良く来場者数が多かった。二日間とも来場者方にお茶やお菓子などでおもてなしをした。小学生の来客者の質問に先生が分かりやすく説明をしてまちの駅について興味をもってもらった。



当日の様子

(4) 反省点と課題

ゼミ生は昨年少人数で活動が難しかったが今年は人数が増えたため、日本人のゼミ生と中国人留学生が協力し合い一緒に活動をした。チームが一丸となって取り組み、活発な活

動ができたと思う。

中国人で説明が難しく上手く出来ない時は、日本人のゼミ生にフォローしてもらった。ゼミ生も増え、パネルにバリエーションが生まれ、素晴らしい出来となった。来場者のお客様に褒められて本当にうれしかった。

来年は、役割分担と時間を上手く調整してより良いパネル展になってほしい。中国人留学生と日本人ゼミ生がさらにコミュニケーションを取れるよう努力していきたい。

3.2.2 模擬店

(1) 模擬店準備

模擬店を出店するにあたりどのようなものを販売するかをゼミで話し合った。その結果、鯉江ゼミは中国からの留学生がいるため中国の伝統料理である水餃子と湯園というゴマ団子を販売することに決めた。水餃子は3つ入りで250円、湯園は4つ入り200円で販売することにした。

また、模擬店の内装なども決め、当日に向け準備を行った。

前日には、ゼミ生で水餃子と湯園を作り試食を行った。



当日の様子

(2) 模擬店当日

1日目は風が強く雨も降っていたためとても寒く、温かい水餃子の売れ行きは上々だった。予定していた販売数を上回ったため急遽買出しに出た。また、湯園がどのようなものかわからない方が多く、売れ行きが悪かったためサンプルを置いた。

2日目は雨が降っていなかったが寒かったため、水餃子の売れ行きはよかった。午後3時を越えると客足も少なくなり、水餃子も崩れてしまったため値段を下げ150円で販売した。

また、模擬店で品物を購入された方にはパネル展への招待券を配り、ゼミ活動を知ってもらった。



水餃子

(3) 取組結果

1日目は水餃子73個、湯園31個を販売した。2日目は通常価格の水餃子82個と150円の水餃子が8個、湯園は20個販売した。2日間の売上合計額は50,150円となった。仕入れ値などを引いた結果、24,150円の黒字となった。

(4) 反省点・課題

前年度の資料がなかったこともあり企画の段階から書類の書き方、品物の販売個数の目安などわからないことが多く手間取った。

当日の段取りを把握してなかったため検品などに時間がかかってしまった。次回出店する際は検品やトラブルがあることを見越して時間を管理したい。

水餃子の皮が薄くすぐに崩れてしまった。湯園はゆでる時間が難しく、ゆであがってからしばらく放置すると溶けてしまった。準備の段階から把握し、材料を替えるべきだった。

3.2.3 まとめ

初めての取組みが多くメインのパネル展に加えて模擬店も出店したので準備や運営が大変だったが、状況に応じて臨機応変に動くことが出来た。忙しい中でも満足感を感じることができ、終わった後は達成感があった。

パネル展を見た後に模擬店に来てくださった方も多く、ゼミ活動を知ってもらえるいい機会になった。また、来場者の中にはまちの駅の関係者や、鯉江ゼミ OB・OGの方が来られ、ゼミ活動を通じた人脈の多さに気づくことができた。

悠久祭の前夜祭では大いに盛り上がり日本人学生と留学生共にゼミ全体で仲を深めることができた。

4. 平成 28 年度まちの駅全国フォーラム in TOKYO

4.1 開催趣旨

「まちの駅」はまちの案内所・地域の茶飲み場として、既存の施設・空間（公共施設・民間施設）を自発的に開放するもので、平成 10 年から活動が始まった。各地の「まちの駅」では故郷愛をもった駅長・駅員が、地域の人や来訪者をもてなしの心で迎えるとともに、地域の魅力を紹介している。駅のネットワークにより地域全体の魅力を高めていこうという動きとともに、全国各地でまちの駅同士の交流・連携も進められている。

全国フォーラムは、そうした全国各地のまちの駅仲間が一堂に介して、それぞれの取り組みを紹介し合い、課題を一緒に考える場として、毎年開催しているものである。

今回は先進的なまちの駅の実践例に学び、参加者同士の自由な意見交換によって地域を元気にする知恵やひらめきが湧き出すことを目指し、開催された。

4.2 まちの駅全国フォーラム参加の目的

鯉江ゼミナールは平成 19 年度よりまちの駅を対象に調査・研究を行っている。長岡大学はまちの駅であり、全国フォーラムには、まちの駅に携わる一員として参加した。

今回のまちの駅全国フォーラムへの参加者は全員 3 年生であった。まちの駅全国フォーラム in TOKYO を通じて新潟県のまちの駅のみならず、県外のまちの駅関係者と交流を深めると共に、まちの駅にまつわる現状の理解を深め、新たな発見に繋げることを目的とした。

(1) 開催日

2016 年 9 月 30 日（金）～ 2016 年 10 月 1 日（土）

(2) 会場

代々木オリンピック記念青少年総合センター

(3) 主催

全国まちの駅連絡協議会

(4) 共催

まちの駅東京交流会、あらかわ区まちの駅ネットワーク

(5) 後援

総務省、観光庁

4.3 参加した企画

(1) 1 日目：9 月 30 日（金）

13:20～ 開会挨拶

13:30～ 全国まちの駅連絡協議会 総会

14:40～ 基調講演「マップづくりから始める住民参加のまちづくり」

講演者 藤田 とし子（まちとひと感動のデザイン研究所代表）

15:15～ テーマ別分科会 第 3 分科会「まちの駅のビジネス力」

17:30～ 交流会懇親会

<まちの駅連絡協議会 総会>

この総会では、平成 27 年度の事業報告案や決算案から平成 28 年度の予算案、役員案などの議事が行われた。また、会則や設置要綱などの一部改定について議事もなされた。

全国まちの駅連絡協議会会長でもある見附市長のごあいさつでは、「まちの駅全国フォーラム in TOKYO というこの機会を通じて、活動と知恵を学ぶ機会をつくりたい。そしてここで学び得た力で地方創生に繋げて行ければ」と述べた。



久住市長のごあいさつ

<基調講演「マップ作りから始める住民参加のまちづくり」>

マップ作りから始める住民参加のまちづくりでは、講演者の藤田とし子さんがマップ作りを通じたまちの活性化について、講演を行った。まちに住まう人達が、自分たちの言葉でまちを紹介するマップ作りの事例などを紹介していただいた。



藤田とし子さんの講演

藤田さんは「活性化で大事なことは単に人がたくさん来る事ではなく、地域経済、組織の活動が活発になり、地域社会が潤うこと」であると語った。まちの魅力を発信するためには、まず自分たちで行動を起こしまちの棚卸しを行う。今まで知らなかった、まちに眠る魅力の掘り起こしが重要であり、まちに住まう自分たちが、まちを好きになることが「まちの良さ」を伝えるうえで欠かせない要素となる。マップという情報発信を基にして地域の魅力を届け、また訪れたいくなるようなまちのイメージづくりの大切さを知ることができた。この講演では、内側から知る魅力と自分たちが持ち得るまちの魅力をいかに発信していけばいいのかを考える良い機会となった。

<テーマ別分科会>

テーマ別分科会では、以下の 5 分野に分かれさまざまな切り口から事例を基に話し合った。

- ・ 第 1 分科会「まちの駅と歩くまちづくり」
- ・ 第 2 分科会「まちの駅のおもてなしと観光戦略」
- ・ 第 3 分科会「まちの駅のビジネス力」
- ・ 第 4 分科会「まちの駅の広域連携」
- ・ 第 5 分科会「楽しく始めるまちの駅」

学生は第 3 分科会の「まちの駅のビジネス力」に参加をした。ここではまちの駅での実践例を紹介したのち、各グループに分かれ、事例の感想や課題について意見を交換した。

以下がその事例である。

<事例① 鹿児島県出水市麓町周辺で開催される「着物で出水武家屋敷を歩こう会」>

- ・ 参加費 5,500 円で当日着た着物、帯、足袋を持ち帰ることができる。
- ・ 着物等は全国から集めた古着を活用している。

- ・ 毎年、申込みが多く、女性や外国人観光客に人気(申込みは女性優先)。
- ・ そのまちを着物姿で歩いてもらい、伝統に触れ、活性化につなげる。

<実例② 福井県勝山市の「まちの駅ネットワーク勝山」ナビカード(まちなびカード)事業>

- ・ まちの駅の知名度向上、利用率を上げることが目的。
- ・ 勝山市の観光施設「恐竜博物館」からの地図をカードに記載。カードは色ごとに区別する(例：食べる…緑、泊まる…黄、買う…ピンク、見る…青など)。
- ・ カードの割引クーポンをつけることも可能だが、自己負担になること。
- ・ 印刷などでコストがかかる。

上記の実例に対する意見や感想を各グループで話し合い、最後にそれぞれの班からでた意見や課題のまとめを行った。

学生の質問では実例①について、「持ち帰った着物を次にどう活かすのか」という意見が出された。質問に対して堂脇さんは、「まさしくそこが課題である。持ち帰って貰った着物の次への活用、またイベントでの着付けスタッフの育成が今後の大きな課題になる」と述べられた。

実例②については、観光客に向けた取り組みだけに、訪れた人が持って行くカードにバラつきがあるといった点が課題として挙げられた。

また学生の一人が分科会でのまとめをする係になり、そのグループで出た意見のまとめを一生懸命発表した。発表で学生は「それぞれの地域での成功例が、各地域でそのまま適用するとは限らない。それぞれの地域に合わせた対策が必要」とまとめた。

この分科会を通して、魅力をうまく活かした実例や、その課題など、いかなる取組みにも課題が付きものだということを学んだ。また、まちが持つ資源をいかに組み合わせ、効用が最大になるのか、直面した問題とどう向き合っていくのかを深く考えるきっかけとなった。

<交流懇親会>

まちの駅の駅長さんたちと一緒に交流懇親会を行った。学生達は駅長さんに料理やお酒を持っていくのを機会として多くの駅長さんたちとお話しをした。

途中でそれぞれの地域の駅長さんを紹介しあい、学生たちも新潟から来たグループとして紹介された。会食では、今まで行ってきたゼミでの取り組みや個人的な将来のこと、お互いの地域の話、まちの駅の今後についてなどを深く話し合った。分科会ではお話しできなかった方とも交流をすることができた。とても楽しく、盛り上がった懇親会だった。



堂脇忠男さんの講演



交流懇親会にて

(2) 2日目：10月1日（土）

8:40～ まとめのセッション

9:40～ お楽しみプログラム

①「藤田とし子さんのマップづくり講座」

②「明治神宮の森の散策」

<まとめのセッション>

まとめのセッションでは、1日目に行われたテーマ別分科会のまとめが行われた。5つに分かれた分科会で議論された意見や新たに浮かび上がった課題などを全体に周知してもらうため、各分科会の代表が発表を行った。

<2日目マップ作り講座>

お楽しみプログラムのうち学生は藤田とし子さんによるマップ作り講座に参加をした。マップ作り講座ではいくつかのグループを作り、学生はそれぞれの班に分かれて作業を行った。グループ内では自身を食べ物に例えたユニークな自己紹介を行い、藤田さんの指導の下、例えた食べ物が一番高価だった人が各グループの進行役となった。自分の住まう地域のバラエティに富んだ紹介マップが完成した後、それぞれのチームでまず紹介し合った上で、チーム内での上位3位を順番に発表した。歴史的なスポットから地域のちょっとした面白スポットなど、多種多様な魅力を発信した。ここでは、他の地域の人たちに自分たちの言葉で、自分たちのまちを伝える難しさを知ることができた。



マップ作りの様子



発表の様子

4.4 まとめ

今年度の鯉江ゼミは3年生が多く、今回のまちの駅全国フォーラム in TOKYOへ参加した学生も全員3年生であった。まちの駅と関わって経験も浅い中で、まちの駅や人生においても大先輩の方々と関わる事が出来た。

まちの駅全国フォーラムへの参加を通しての気づきは、自分たちが住むまちの魅力をまず自分たちで知ることが大事だということである。日頃身近に存在している、見落としがちなまちの魅力を見つけ十分に理解して発信していくことが、まちの活性化に繋がるからである。自分たちのまちを好きになることが地域活性化への第一歩であると考えられる。そこからもう一歩、まちを好きになってもらうには、普段とは違った目線でいろいろな角度からまちを知り、深く考えることが地域活性化では重要になってくると感じた。

まちの駅全国フォーラム in TOKYOではそれぞれの地域に駅を構えている駅長さん達が東京に集い意見を交換し合った。観光、歴史、文化は日本の中でも地域によって異なる。まちの活性化に向けて今回で得た学びを自分たちの地域ではどのように応用すればいいのかを考えながら、今後の活動に活かすことが出来ればよいと思った。次回のまちの駅全国フォーラムも是非とも参加をして、まちと人との交流を深めると共に、新たな発見を学んでいきたい。

5. 新潟県内まちの駅交流会

5.1 概要

(1) 日時

平成 28 年度 11 月 19 日（土）

(2) 場所

交流会・・・長岡大学第 5 会議室

懇親会・・・長岡大学地域交流ホール

(3) 主催、司会

長岡大学鯉江ゼミナール：鯉江 康正

(4) 内容

ごあいさつ・・・長岡大学学長：村山 光博

鯉江ゼミの「まちの駅」活性化の活動について・・・長岡大学副学長：鯉江 康正

「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献：鯉江ゼミ学生

講評 アドバイザー：里山ログハウス 中川 一男 氏

講評 アドバイザー：長岡市市民協働課 岩嶋 雄人 氏

まちの駅紹介・PR・・・花火の駅・長岡花火ワールド悠：長谷川 栄久子 氏

まちの駅よってげさ おぐま酒家：小熊 勇三 氏

まちの駅長岡大学駅長：品川 十英

お菓子の駅駅長：鵜頭 明男 氏

学内見学

懇親会

乾杯・・・見附市地域経済課課長：森澤 亜土 氏

ごあいさつ・・・長岡大学教授：広田 秀樹

(5) 参加者

<まちの駅長参加者>

(敬称略)

地 域	駅 名	氏 名
長 岡	市民協働推進部市民協働課	岩嶋 雄人
	花火の駅・長岡花火ワールド悠	長谷川 栄久子
	まちの駅長岡大学	品川 十英
	まちの駅よってげさ おぐま酒家	小熊 勇三
見 附	里山ログハウス	中川 一男
	泊屋菓子舗	鵜頭 明男
	見附市地域経済課課長	森沢 亜土

< 学生参加者 >

4年生：新保 祐樺、小林 川子、趙 清宇

3年生：池田 諒馬、江口 枝里子、片桐 湧太、木島 俊久、小松 綾乃、陳 奥、
田 源一、中島 なつ美、中曾根 湧、楊 婉蘭、横田 百合江、鷺尾 創太

2年生：鹿島 大輝

< 教職員参加者(敬称略) >

学長・・・・村山 光博

事務局長・・・・品川 十英

副学長・・・・鯉江 康正

教務学生課課長・・・・井比 亨

教授・・・・広田 秀樹

地域連携室・・・・山田 満智子

准教授・・・・米山 宗久

5.2 開催目的

まちの駅の駅長さんをお呼びし今年度行ってきたゼミナール活動をまとめ、まちの駅長さん方に発表を聞いていただくことによりゼミナールの活動を知っていただく。さらに、駅長さん方とゼミナールの学生が意見交換をすることによって今後の活動に活かす。また、まちの駅の方々と楽しく交流をすることによって親睦を深める。

5.3 まとめ

発表資料の作成の際は人手が足りず苦労した。しかし、空いている時間は全てこの作業に費やし、ゼミナールの学生と協力することで良い資料を完成させることができた。練習時間があまり取れない中での発表となってしまったが、スムーズに発表することができた。里山ログハウスの中川一男さんから「ゼミナールの活動の中で苦労したことについての発表が良かった」「人脈やコミュニケーション力がついたのではないか」などの感想をいただくことができた。また、他の駅長さんからもお褒めの言葉をいただくことができた。懇親会では、駅長さん方と食事を楽しみながらお話することで交流が深まり、距離を縮めることができた。

苦労した点もあるが良い発表ができ、ゼミナールの活動について知ってもらうことができた。さらに、意見交換をすることで今後の課題が見えた。それから、まちの駅の方と交流を深めることができた。

発表時の質疑応答の際、市民協働推進部市民協働課の岩嶋雄人さんからは「まちの駅のパネルを有効活用したらどうか」という意見をいただいた。これを受けて今後の課題としては、作成したパネルを作成で終わらせるのではなく、どのようにしてまちの駅の情報を広めていくかが重要であることが認識できた。例えば、アオーレ長岡市民協働センター(ながおかまちの駅)にパネルを展示させていただいた際、「パネルを縮小したものをアオーレに置き、利用者が手に取れるようにしたらどうか」という提案をいただいた。このようなことを今後行っていく必要がある。これからもまちの駅長さんだけでなく、多くの方たちと交流を深めていき、良い活動をしていきたい。

<発表の様子>



<懇親会の様子>



6. 越後長岡まちの駅ネットワーク駅長会議

概要
第一部 座談会 <ul style="list-style-type: none">・長岡大学鯉江ゼミ成果発表・越後ながおかまちの駅シールラリーの旅 2016 の振り返り
第二部 懇親会
目的：これまでの事業を振り返りながら次年度事業を考えると共に交流を深める
評価 <ul style="list-style-type: none">・市役所によるまちの駅の活動について知ることができた。・まちの駅長さんや市役所の方々と交流を深めることができた。
感想 <ul style="list-style-type: none">・ 駅長会議を通して駅長さんや市役所の方々と交流し、長岡大学によるまちの駅の活動や各地域によるまちの駅の活動について語り合える良い機会となりました。多くの方との交流を通して、来年度はもっと多くのご依頼を受け活動していけそうだと感じました。・ 成果発表において、2度目の発表だったため私自身落ち着いて説明することができました。参加者の方々からはお褒めの言葉をいただき嬉しかったです。懇親会では、普段話すことができない市の職員の方々やまちの駅の方々と接することができて、貴重な時間となりました。



駅長会議の様子
(写真上：座談会、写真下：懇親会)

7. まちの駅や地域におけるボランティア活動への参加

地域の人々との交流や地域への貢献を目的に、「まちの駅」の調査活動を通じて交流した駅の依頼でボランティア活動に参加した。

今年度は、ハロウィンみつけ、今町まちなかマルシェ、とうきび観音祭りの3つのイベントに協力することができた。

7.1 ハロウィンみつけへの参加

7.1.1 概要

ハロウィンみつけは、「みんなおいでよ！オカシなストリート、モンスター注意報発令中」と題し、見附市本町商店街通りをメイン会場に平成28年10月23日(日)に開催されたイベントである。

今年度学生は「ハロウィンみつけ実行委員」としても参加し、ポスター、チラシのデザインやイベント内容、飲食ブースで売られたハロウィン特製のこんにやくなどアイデアだしにも参加し、見附本町商店街の人々を中心として連携し地域活性化につなげることができた。

当日は、仮装コンテストと仮装パレードなどのスタッフとして参加し活動を行った。

(1) ハロウィンみつけ当日

- ① 開催日時：2016年10月23日(日)
- ② 場所
メイン会場 見附市本町商店街
周辺エリア 見附市新町、本町、本町商店街及び周辺
- ③ 主催：ハロウィンみつけ実行委員会
- ④ 依頼元：まちなか賑わい活動応援隊（中川氏）
- ⑤ 参加メンバー

鯉江ゼミ	氏名
4年生	新保祐樺
3年生	池田諒馬、江口枝里子、片桐湧太、木島俊久 小松綾乃、中島なつ美、中曽根湧、横田百合江 鷺尾創太
2年生	鹿島大輝

⑥ 当日スケジュール

11:00	開催挨拶	15:00	コンテスト表彰式
11:00	最強じゃんけん	15:15	最弱じゃんけん
12:00～13:00	仮装コンテスト	16:00	イベント終了
13:00～15:00	仮装パレード		

(2) ハロウィンみつけ実行委員会

① 開催日時

日 時	会 議 内 容
7月7日(木) 第1回実行委員会	① 顔合わせ、体制発足 ② 事業、スケジュール案説明 ③ 資金調達等課題共有
7月19日(火) 第2回実行委員会	① 事業方針の決定 ② 事業プログラムの検討 ③ 資金集め等の文書確認
8月4日(木) 第3回実行委員会	① 事業プログラム案詳細決定 ② アトラクションなど依頼先の決定 ③ 交通規制、誘導員関係検討
9月1日(木) 第4回実行委員会	① PR原稿確認、確定 ② PR先などの分担 ③ 協力店の集約、用具手配 ④ 審査員など外部スタッフの依頼
9月20日(火) 第5回実行委員会	① 資金調達の間中締め切り ② PRの本格開始 ③ お菓子、景品などの手配
10月6日(木) 第6回実行委員会	① スタッフ、マニュアル作成 ② 役割分担の確認 ③ 資金集め、PRの追い込み
10月19日(水) 第7回実行委員会	① 当日の運営スケジュールの確認 ② 印刷、掲示物の作成確認 ③ 借用備品などの調達確認 ④ 設営、撤去担当の確認
10月22日(土) 第8回実行委員会 (前日準備)	① 備品借用、運搬作業 ② 最終確認
11月4日(金) 第9回実行委員会	① 反省会 ② 来年度のスケジュール案

② 会議場所：見附中央公民館

③ 参加メンバーと役割

役職	氏名	役割
4年生	新保祐樺	アトラクション
	趙清宇	PR・総括
3年生	江口枝里子	パレード
	木島俊久	PR・総括
	小松綾乃	コンテスト
	中曽根湧	アトラクション
	横田百合江	コンテスト
	鷺尾創太	パレード

④ ハロウィンみつけ実行委員概要

実行委員では、当日行うプログラム、ポスター案、飲食ブースで販売するお菓子などをハロウィンみつけにどのように組み込むかを以下4つの班に別れアイディアだしを行った。

- a. PR・総括班：ハロウィンみつけのポスター作り、SNSでの発信などをメインに広報活動を行った。
- b. パレード班：見附の商店街を来場者に知ってもらうプログラム作りを行った。
- c. コンテスト班：仮装コンテストの景品と当日の司会運営などを行った。
- d. アトラクション班：フラッシュモブや飲食ブースで売られるこんにゃく、ホットサンド、カレーなどのアイディアだしを行った。

7.1.2 参加目的

まちなか賑わい活動応援隊の中川氏から見附の商店街の地域活性化の依頼を受け、ハロウィンみつけの企画を立案する実行委員としても参加した。その目的は、見附商店街の地域活性化と学生の社会人基礎力の向上である。

7.1.3 主なイベント概要

以下、ハロウィンみつけのイベント内容である。

(1) 最強じゃんけん大会

子供から大人まで参加し、二列の列を作り向かい合いペア同士でじゃんけんをする。勝ち抜いた上位3位までに豪華なプレゼントが用意された。

(2) 仮装コンテスト

子供から大人まで仮装をし、アピールポイントを含めたパフォーマンスを行った。入賞者には豪華なプレゼントが用意されました。学生は司会やコンテストの補助などをした。

〈仮装コンテストの様子〉



(3) 仮装パレード

ハロウィン見附に協力する各協力店の店先で「トリック・オア・トリート」の言葉で協力店からお菓子の配布を行ってもらった。それに加え当日発表のスタンプラリー「宝探し」のイベントを行い見附の商店街を練り歩いた。

(4) 最弱じゃんけん大会

最強じゃんけんとは異なり、じゃんけんの最弱を競うイベント。勝ち抜いた（負けた）ものには、景品が授与された。

(5) フラッシュモブ

突然音楽が流れ始め、それに合わせ実行委員が続々に踊りだした。途中から一般参加者も加わり、会場は大いに盛り上がった。



〈フラッシュモブの様子〉

(6) 飲食ブース

グルメエリアにて、学生はカレーやホットサンド、わたあめやこんにやくを販売した。その他にも商店街の方がお酒や焼き鳥などの販売を行った。その場で食べられるように飲食スペースを設け多くの来場者が利用していた。

7.1.4 まとめ

会議終了の時間が遅くなりバスや電車などの時間が無く、毎回タクシーでの移動となったため、委員会開催方法を検討することによって、経費面からも今後改善できるのではないかとされる。たとえば、イベントのプログラム案や作業スケジュール案をあらかじめ作りこんでおいて、それに修正する形で実行委員会を運営すればもっと効率的に準備できたなどの反省点があがった。

地域に定着しているイベントの企画段階から参加し、学生がこのような会議に参加できることはほとんどないため、とても貴重な経験となった。この点については、ゼミ活動に限らず、今後社会に出たときに必ず役立つため、人間としても成長できたのではないかと感じている。実行委員会ではアイデアはたくさん出てくるが、その中から実際できることを選び、まとめていく苦労はスタッフになってみないとわからないことだったが、まちなか賑わい活動応援隊の皆さんや見附商店街の人たちと協力しイベントは成功裏に終わることができた。

〈中川氏と鯉江ゼミナールの集合写真〉



〈ハロウィンみつけポスター〉

みんなおいでよ! オカシなストリート

モンスター 注意報 発令中!

第5回ハロウィンみつけ

10月23日

10月23日(日)

メイン会場(主催コンテスト) 本町商店街通り・歩行者天国 副都心エリア(会場パレード) 新町・本町・本町中央商店街及び周辺 キッチンカー登場	優勝じゃんけん大会 優勝コンテスト 仮装パレード 優勝コンテスト表彰式 優勝じゃんけん大会
---	--

主催 第5回ハロウィンみつけ実行委員会 問い合わせ先 090-1935-3568

ハロウィンみつけ

可笑しなお菓子な商店街

見附ハロウィン雨天結構

モンスター注意報発令中「みんなおいでよ！オカシなストリート」と題し、本町商店街通りをメイン会場に「第5回ハロウィンみつけ」が23日に開かれた。雨模様の中、仮装パレードでは500人の参加者がかわいらしい魔女やお姫様、怖いお化けなどのコスチュームに着替えて大行進した。(1)

写真①と② 新町・本町・本町中央商店街周辺を練り歩いた仮装パレードのコマ。仮面をつけたり、カボチャ色のマントを身に付けた魔女や魔法使い、ガイコツ男など思い思いのコスチュームで参加者が大集合。

各協力店舗の店先で「トリック・オア・トリート」と唱える店主らが「ハッピーハロウィン」と返してアメなどを渡し、スタンプラリーも併せて行った。新町商店街通りでは、各種グルメを味わえるコ

ーナリが登場。カレーライスや焼き鳥の他、コウモリやハートなどの形でも緑や赤などハロウィン仕様のコンニャク煮や舌が真っ青になるガム、わたあめなどが子どもたちに大人気だった。写真③ 最強じゃんけ



ん大会。2列の長い列を作り、向かい合ったペア同士がまずは握手してから「じゃんけんぽん」。上位3位までに豪華な賞品がプレゼントされた。優勝者は長岡市から家族で訪れていた小学3年



生の橋本ひかるさん。ちなみに最弱ジャンケン大会も別に行われた。写真④ 仮装コンテストの様子。この日のために新調したユニークな衣装に身を包み、大人から子どもまで自慢の仮装を

競い合った。優勝目指して出場者がアビール合戦をした結果、山谷結花さん(右)と関澤忍さん(左)がグランプリに輝いた。市内出身の二人は、インターネットなどで人気のボーカロイドの楽曲



に乗せ、姫役の山谷さんと召使役の関澤さんが歌のイメージに合わせたストーリー仕立ての寸劇を披露。今度はドラキュラをモチーフにした踊れるもので来年も出場したい」と話していた。



みつけ新聞

平成 28 年 10 月 27 日

学生らしい着眼点光る 長岡大がハロウィン協力

同ゼミは「まちの駅」

あいにくの雨にも負けず今年もにぎやかなパレードが繰り広げられた「ハロウィンみつけ」。今年は、

長岡大学の副学長鯉江康正教授のゼミ生11人もスタッフとして参加し、イベントを盛り上げた。今年もにぎやかなパレードが繰り広げられた「ハロウィンみつけ」。今年は、

をフィールドとして調査研究活動をしており、ハロウィンみつけの中川一男実行委員長が同ゼミのアドバイザーをしている関係から学生たちが協力。 「モンスター注意報発令中」の文字が目立つポスター・チラシのデザインやイベント内容、飲食ブースで売られたハロウィン仕様のコンニャクなど学生らしい着眼点でアイデアを打ち出した。

当日は、仮装コンテストの司会やコンテスト発表前に突然パフォーマン



スが始まったフラッシュモブなども学生たちが楽しみながら披露。子どもたちの注目を集めていた。ゼミ生の中曾根湧さんは「地域に定着しているイベントの企画段階から参加させて頂き、とても良い経験になりました。会議ではアイデアはたくさん出てくるが、その中から実際できることを選び、まとめていく苦労はスタッフになってみないと分からないことでした」と振り返り、鯉江副学長は「自分たちが責任を持ってやらないとイベントは成功できないということを学んでくれたようですね」と話していた。

7.2 とうきび観音祭りへの参加

日時：8月10日（水） 場所：栃尾谷内通り商店街 依頼元：日本茶の駅（広野茶店）
概要： 学生は、無料抽選会・1円玉ゆらゆらゲーム・輪投げ・スーパーボールすくい・ダーツゲームのイベントの運営ボランティアを行った。
感想（共有のもの） <ul style="list-style-type: none">・多くの親子連れが来場され、交流できたことが良かった。・準備や片付けが大変でしたが、商店街の人と協力して行うことができた。 感想（個人のもの） <ul style="list-style-type: none">・スーパーボールすくいの運営では、客層は親子での来場者が多くとても賑わいました。笑顔がいいねとのお声かけが嬉しかったです。毎年の事らしいのですが人気のあまりすぐに商品がなくなってしまい店じまいをしました。その後、他の屋台の手伝いを行いました。多くの方と交流し、元気な子供たちから栃尾の活気を感じられました。・輪投げの運営を行い、子供たちが参加しやすいように「ここから投げてね」や「頑張っ」などの声かけを積極的に行いました。楽しそうに子供たちが輪投げをしているのを見て、私自身とてもやりがいを感じました。また、祭りの運営をさせて頂き貴重な経験になりました。
評価 <ul style="list-style-type: none">・人との交流によってコミュニケーション能力が向上し、笑顔が身についた。・学生が進んでイベントの運営を行うことによって、主体性が向上した。
参加者 （鯉江ゼミ）池田諒馬、江口枝里子、片桐湧太、小松綾乃、中曽根湧 （本学学生）金井彩香、金子雅人、田中志季、林鉄朗、小林拓史、山口尊広

7.3 今町まちなかマルシェへの参加

日時：10月8日（土） 場所：見附今町商店街 依頼元：お菓子の駅（泊屋菓子舗）
概要： 学生は、フードコーナー（カレー&チャイ、ドリンク&ビール&おでん&焼きそば）と抽選会のイベントの運営ボランティアを行った。
感想（共有のもの） <ul style="list-style-type: none">・多くのお客さんをできるだけ待たさない様に対応することが大変であった。・子供から年配の方まで、多くの世代と交流できたことが良かった。・学生はそれぞれが祭りを楽しむことができた。 感想（個人のもの） <ul style="list-style-type: none">・私は、抽選会場の運営を行いました。客層は比較的年配の方が多いと感じました。大雨での開催となりましたが多くの方々が来場され大盛況でした。・私も同様に抽選会場を担当し、景品の受け渡しを行いました。景品を正確に素早く袋に詰めることに苦労しました。素早く詰められず、来場された方を待たせてしまうことが多かったです。しかし、苦労したことばかりではなく、来場された方と交流できたことは嬉しかったです。
評価 <ul style="list-style-type: none">・人との交流によってコミュニケーション能力が向上し、笑顔が身についた。・学生が進んでイベントの運営を行うことによって、主体性が向上した。
参加者 （鯉江ゼミ）池田諒馬、江口枝里子、片桐湧太、木島俊久、小松綾乃、中島なつ美、 中曽根湧 （本学学生）山口尊広、鈴木康幸、松井亮介、山城時生



とうきび観音祭りの様子



今町まちなかマルシェの様子
(写真上：抽選会場、写真下：フードコーナー)

8. ウェブページの更新

今年度は、トップページの更新と、新しく作成したまちの駅紹介パネルの追加、およびパネルの更新を行った。このページには、長岡大学のホームページにリンクが繋がれているので、ホームページ内にある「新潟まちの駅の紹介」から飛ぶことができる。

(1) 全体像

デザインは昨年度のものを使用した。

(2) 各項目説明

<まちの駅とは>

まちの駅の概要を紹介すると共に、より詳しくまちの駅の情報を得られる「全国まちの駅連絡協議会」の公式サイト「まちの駅」へのリンク機能が付いている。

<県内のまちの駅リンク>

新潟県内でまちの駅ネットワークを形成している「越後長岡まちの駅ネットワーク」「まちの駅ネットワークみつけHP」へのリンク機能が付いている。

<これまでの活動概要>

各年度活動概要に昨年度の鯉江ゼミナールの長岡大学地域活性化プログラム報告書ページへのリンク機能を追加した。

<今年度の活動概要>

今年度行った活動内容を紹介した。詳しい内容はこの報告書の通りである。

<まちの駅一覧>

今までに作成されたパネルに加え、今年度作成したまちの駅のパネルの追加と更新を行った。ここでは計 126 駅の新潟県内のまちの駅のパネルを紹介している。

地域ごとの検索ボタンから下にあるまちの駅のリストに飛べるようになっている。

今年度新たに追加・更新したまちの駅が一目で分かるように「更新」「NEW」と付いている。

9. とりまとめ

以下、今年度の活動・研究の結果明らかになった点をまとめ、今後の課題を整理する。今年度の活動・研究テーマは『「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献』である。

まちの駅の情報発信については、パネルを更新し、新潟県内のヒアリング調査では、長岡 19 駅、見附 12 駅、糸魚川 2 駅、新潟 2 駅、魚沼 1 駅、五泉 1 駅の合計 37 駅のまちの駅にヒアリングを実施しパネルを作成した。その成果を、平成 28 年度の悠久祭でパネル展という形で実施した。

ヒアリング調査は、まず新潟県内のまちの駅をリストアップするところから始まった。その後、全新潟県内まちの駅にパネル更新に関する意向を確認する文書をお送りし、新駅と併せて、ヒアリング調査を希望する駅にヒアリング調査を実施した。この調査では「駅を始めたきっかけ」や「そのまちの駅について」「その地域のオススメスポット」などをお伺いした。オススメスポットには調査の合間にブレイクタイムとして立ち寄りたりもした。

パネルでは、駅からいただいた文書や資料、ヒアリング調査時の内容を基に作成した。完成したパネルは各駅に FAX でお送りし確認をしていただいた。「修正あり」と返信を頂いた駅に関しては、電話で修正点を確認し修正後、あらためて FAX をお送りした。

完成したパネルは悠久祭で展示した。その他にもアオーレ長岡市民協働センター「ながおか まちの駅」での展示を行った。

大学の悠久祭では、例年通りパネル展を開催した。今年度は、前年までに作成したパネルと新設された駅を合わせて 126 駅を紹介した。今年は 2 日間で、390 名の方たちに来場していただきました。パネル展の来場者数は昨年より 218 名増となった。学生にまちの駅について質問をしてくれる方が多くいらっしやって、留学生も積極的に各まちの駅についてお話をすることができた。そして今年度は、パネル展示に加え、模擬店を出店した。中華料理の水餃子と湯圓を販売し、ゼミ生が全員で協力し合うことができて楽しかった。初日は悪天候で大変だったが、利益をあげることができた。

ホームページの更新では、パネルを紹介しているホームページの内容と今年度変更した更新点について述べた。

9 月 30 日と 10 月 1 日に東京にて「まちの駅全国フォーラム in TOKYO」が開催された。全国のまちの駅から駅長さんが集まり、報告・意見交換を通じた交流を行った。そこではまちの魅力発信についての事例や、まちの駅を通じた地域活性化の実例などを通じて、活性化への大切なポイントやノウハウ、考えるべき課題などを学ぶいい機会となった。交流で他の地域を知るとともに、長岡大学やゼミで行っている活動などを知ってもらうことができた。また開催地が東京という事もあり、参加した学生は東京ならではの体験を大いに楽しみながら、まちの駅全国フォーラムに参加をした。

「まちの駅や地域におけるボランティア活動への参加」では、まちの駅を通じて、ハロウィンみつけ、とうきび観音祭り、今町まちなかマルシェに参加し、企画、運営を行った。ボランティア活動を通し地域の人々と交流ができ学生自身もイベントを楽しむことができた。それによって、他の活動に取り組む意欲が向上した。次年度も今年度の反省を活かし地域活性化につながるよう積極的に参加したい。

まちの駅間交流の実施については、昨年度の提案でもあり、鯉江ゼミナールが主催し、

長岡大学で「新潟県内のまちの駅交流会」を行うことができた（参加者 28 名）。まちの駅全国大会のように、学生それぞれがご参加頂いたまちの駅の方たちとお話しすることができていた。来年も、「新潟県内のまちの駅交流会」を開催できるのであれば、今年の交流会よりもより良いものを作り上げていきたい。

「越後長岡まちの駅駅長会議」では、座談会（鯉江ゼミの活動発表と越後長岡まちの駅シーララリーの振り返り）と懇親会を行った。会議への参加により、まちの駅長や市役所の方々との交流が深められた。来年度もこのような会議に参加することにより、まちの駅の方々との更なる交流を図っていきたい。

ヒアリング調査やボランティア活動に参加することで、留学生にとっては日本をより知ることができ、大きな経験を得られたと思う。また、いろいろな場に参加したことにより、昨年度よりもまちの駅の理解が深まり、まちの駅の方々との繋がりが強くなったのではないと思う。今後もまちの駅に積極的に関わっていき、学生一人ひとりがまちの駅を広めていく「ファン」になっていくことが理想である。

今後の課題・反省では、先を見据えて、計画を立てることや詰めスケジュールになることを防ぐこと。在校生の皆さんには、これからはもっと自発的に自らまちの駅や「まち」のことを事前によく調べることによって、地域の新たな魅力発見に繋げてもらいたい。来年、腰が重いまちの駅長さんとの付き合いについて、今後の調査に協力してもらう方法を考えることを期待している。今年は、ヒアリングに行けなかった駅が3つあり、来年度に行くつもりであるが、依頼があった駅には必ず行くことが必須である。また、活動を通して多くのことを吸収し、まちの駅を広めるため、より一層の努力をしていきたい。

<謝 辞>

最後に、お忙しい中、私たちの取組を全面的に応援して下さった「長岡市市民協働推進部市民協働課」の岩嶋さん、「まちの駅里山ログハウス」の中川さんを始め、ヒアリング調査、パネル作成に協力していただきました地域の皆様、誠にありがとうございました。

また、日頃の活動のサポートや報告書の作成などでいろいろとご協力して頂いた「地域連携研究センター」の職員の方々にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(以上)

<参考文献>

文献1：長岡大学『学生による地域活性化提案プログラム 平成26年度活動報告書』平成27年3月

文献2：長岡大学『学生による地域活性化提案プログラム 平成27年度活動報告書』平成28年3月

文献3：まちの駅ホームページ (<http://www.machinoeki.com/>)

文献4：特定非営利活動法人 地域交流センター『地域交流センター40周年記念誌 地域交流センターのあゆみ』平成28年10月

文献5：まちの駅連絡協議会 「第19回まちの駅全国大会 まちの駅全国フォーラム in TOKYO」(パンフレット)

長岡大学 学生による地域活性化プログラム 各プロジェクト報告書

1. 十分杯で長岡を盛り上げよう！ ～十分杯を、地域から愛される“問題児”に！？～
権 五景ゼミナール
2. 企業ホームページの改善による効果の確認
村山光博ゼミナール
3. 未来の農業革新Ⅲ ～地産地消を通じた循環型社会への貢献～
橋長真紀子ゼミナール
4. 地域の文化と伝統をつなぐ ～高橋九郎生誕 165 周年を記念する活動～
高橋治道ゼミナール
5. 長岡周辺地域の温泉資源の現状分析と情報発信 ～温泉☆ドキドキプロジェクト～
山川智子ゼミナール
6. グラスルーツグローバリゼーション ～草の根・地域からの地球一体化・人類一体化推進～
広田秀樹ゼミナール
7. 酒粕で長岡を盛り上げよう！ ～地域資源としての酒粕の可能性を探る～
権 五景ゼミナール
8. 「まちの駅」をフィールドとした活動等による地域活性化への貢献
鯉江康正ゼミナール

平成28年度 学生による地域活性化プログラム 鯉江康正ゼミナール活動報告書

【発行日】 平成29年 3月22日
【発行人】 村山 光博
【発行】 長岡大学 地域活性化プログラム推進室
〒940-0828 新潟県長岡市御山町80-8
T E L 0258-39-1600 (代)
F A X 0258-39-9566
<http://www.nagaokauniv.ac.jp/>